



学びの道

氷見市立北部中学校

令和4年度学校だより

令和4年5月6日

校歌「学びの道」に思う

校長 櫻打 佳浩

今年度、北部中学校に着任しました校長の櫻打でございます。生徒、そして教職員が元気に生き生きと北部中学校で過ごし、多くのことを学んでいくことができるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。

さて、新年度が始まり1か月が過ぎましたが、生徒はとても落ち着いた様子で学習や部活動に励み、各行事においては、美しい声で校歌等を歌う姿がみられ、とてもうれしく感じています。新入生の音楽の授業においても、校歌の練習から始まり、最近は大きな歌声が校長室まで届いています。

北部中学校に16年振りに勤め、自分自身も校歌を再び歌うこととなり、生徒の時、あるいは、若かりし教員時代に感じなかった校歌「学びの道」に込められた思いを、立場が変わってようやく理解しようとしています。

一番の「海をへだてて並び立つ 剣 立山 薬師岳」については、中学生の時からとても分かりやすく感じていて、卒業後も立山連峰を見る度に、校歌が浮かんできました。二番の「あゆの風吹く万葉の 阿尾の浦わも程近し」については、万葉集から引用されているとは聞いていたものの、その短歌もよく知らない生徒であり、教員でした。

英遠(あむ)の浦に 寄する白波 いや増しに 立ちき寄せ来 東風(あゆ)をいたみかも

大伴家持

(阿尾の浦に寄せる白波が、だんだん増してしきりに押し寄せてくる。東風が激しいからであろうか。)

改めて万葉の歌を確認し、「寄する白波」は、北部中学校で学ぶ生徒の思い、その思いが「いや増しに」としきりに押し寄せてきて、あゆの風(学習や部活動における飛躍)を巻き起こそうとしているのではないかと、私なりの勝手な解釈をしています。

万葉の時代から美しい景観があった阿尾の浦、そして海を隔てて並び立つ立山連峰、そのような地に北部中学校があります。この美しい地で「力尽くして学べ」「学びの道に励め」と、校歌は私たちを叱咤激励してくれています。

そして、「われらぞ 強く生き抜かん」「われらぞ 清く生き抜かん」と、歌詞は締めくくられていて、本校の生徒が卒業後も強く、そして清く社会を生き抜いてほしいという願いが込められています。校歌制定は昭和50年(1975年)ですが、令和4年(2022年)となった今でも、社会を生き抜くために必要なことを私たちに教えてくれているように感じています。

今年度、本校の重点目標を「常に考える ー予測困難な社会を生き抜くためにー」とし、自ら考えて、主体的に行動する生徒が育つよう教育活動「学びの道」を進めているところです。「考える力」は、答えのない時代を生き抜く力といわれています。大人(教職員)が答えを出すのではなく、自ら答えを導き出せるような質問者となって、生徒の生き抜く力を育てていきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染防止対策のため、なかなか授業参観や各種行事等を行えない状況であり、お子様の様子をご覧いただく機会は減っていますが、ホームページを活用して学校の様子をお伝えしてまいりますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

<<http://www.himihokubu-j.tym.ed.jp/>>

